

まえがきに代えて

本年六月は、大平正芳総理が逝去されてはや滿二十年を迎えます。しかし、大平総理が残された数々の言葉は、時の流れを感じさせぬほどいまだに新鮮です。私たちはできることなら、もう一度大平総理の言葉を聞きたいと思うことがしばしばあります。

日中国交回復と田園都市国家の建設を謳った、「潮の流れを変えよう」という二十九年前の政治提言には、ご自身で筆を執って「新世紀の開幕」というサブタイトルを付されたと聞きます。どのような考えから「新世紀」という言葉を使われたのか、いまだでは確認するすべはありませんが、半年後には新たな世紀が到来するわけですから、やはりその時代的意味合いや本質を掴んでおく必要があつたのではないかと残念です。

最近、わが国では、政治や経済、あるいは社会のあらゆる分野で、かつては思いも及ばなかった出来事が次々と生じています。それらが何を意味するか、今後どうなっていくのか、そして私たちはどう対処すべきか、人びとの多くが困惑と焦慮の中にあると申してもよいと思います。

こうしたとき、私たちがしばしば思い出すのは、大平総理が時に応じて語られた、透徹した言葉の数々であります。歴史に「もし」ということは許されませんが、常に深い洞察力をもって人びとを導かれた大平総理を知る私たちは、もしご存命であれば、新たな課題にどう対処すべきか、何か示唆に富んだ言葉を伺うことができたのではという気持ちを抑えることができません。

大平正芳記念財団も、創立後すでに満十五年になります。関係者の暖かいご支援によって、これまで多くの方々に「大平正芳記念賞」と「環太平洋学術研究助成費」の贈呈を行うほか、その偉業を偲んだ『大平正芳回想録』などの出版物を刊行してまいりました。本年は、歿後二十年と生誕九十年を記念して、現代を模索している人びとの関心に応えられる本を刊行する運びとなりました。大平総理と親交の深かった皆様に対して、やはり故人と近しかった第一線の記者がインタ

まえがきに代えて

ビューを行うという形で纏めたものです。大平総理と世代を異にする方々にとつても親しみやすい読み物になったと考えております。

ご多忙の中をインタビューに応じてくださった池田元総理夫人、鈴木、中曾根、宮澤、橋本各元総理をはじめ、関係各位、記者の皆様、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

平成十二年六月

財団法人大平正芳記念財団理事長

平岩 外四